

# 環境心理行動学(EBS) をなぜ学ぶのか

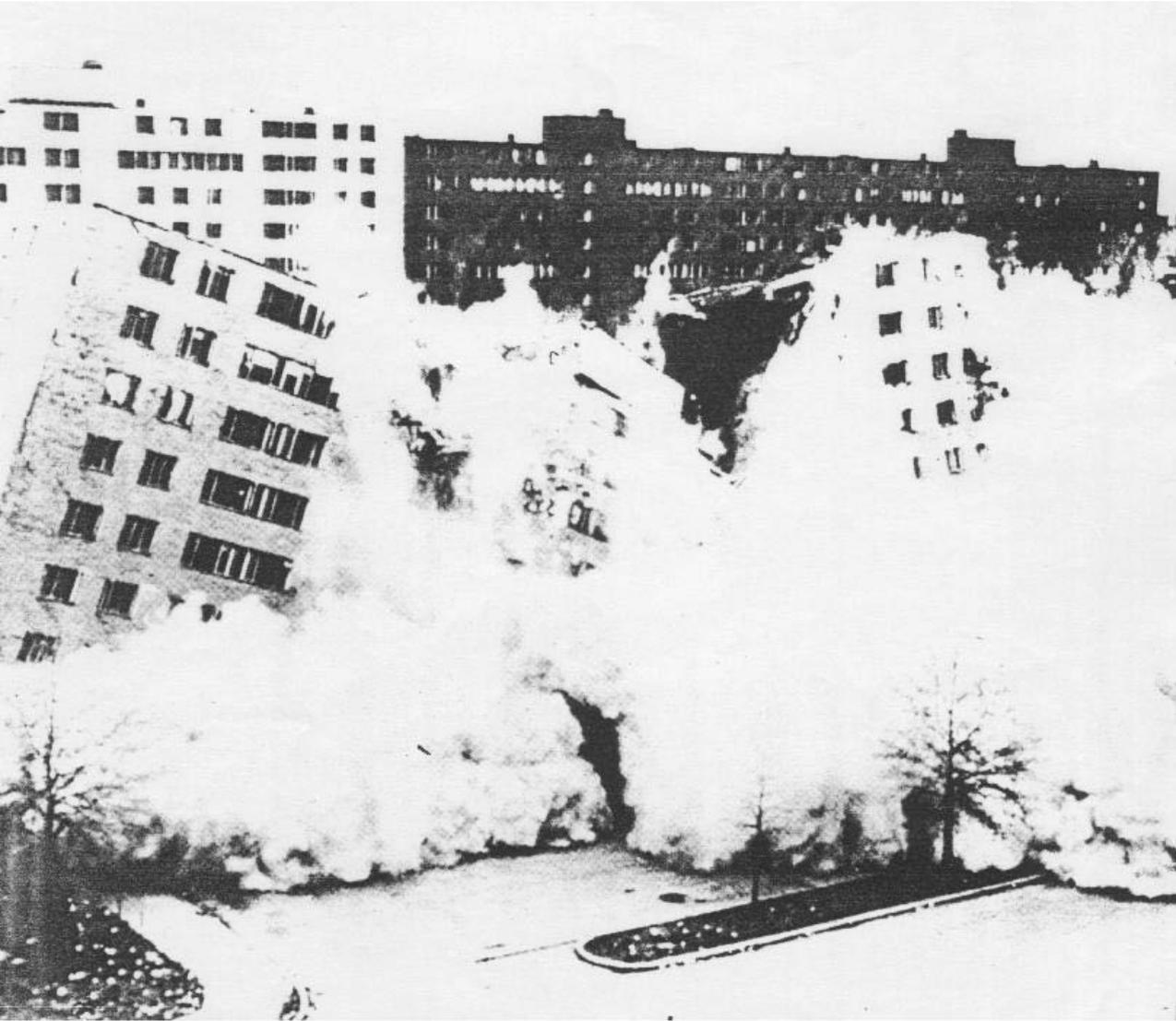
建築行為の失敗をなくすため:

- a. 使用者の行動に対する無知と仮説の誤りによる失敗  
例 → アイゴー団地の失敗

環境設計者(建築家)と使用者との乖離  
⇒ ユーザ研究の必要性

- b. 構築環境の複雑化, 巨大化による予測の誤りによる失敗  
例 → 地下空間における迷い(大阪。梅田地下街)  
⇒ 基本的な心理・行動研究の必要性

# アイゴー団地の失敗



セントルイス市のプルーフ・アイゴー団地の高層住宅が1972年にダイナマイトで爆破された。市営の大規模な集合住宅団地が建設後20年を経ずして市当局によってすべて取り壊された。そこで多発する犯罪の原因の一つが建築にあると判断されたためである。

建築家と一般の人びとの建築に対する見方のギャップがいかに大きく、それがいかに大きな損失を招くのか、また建築空間のあり方が人間行動に影響し得ることの端的な証拠としてよく引用される。

# 環境設計者と使用者との乖離

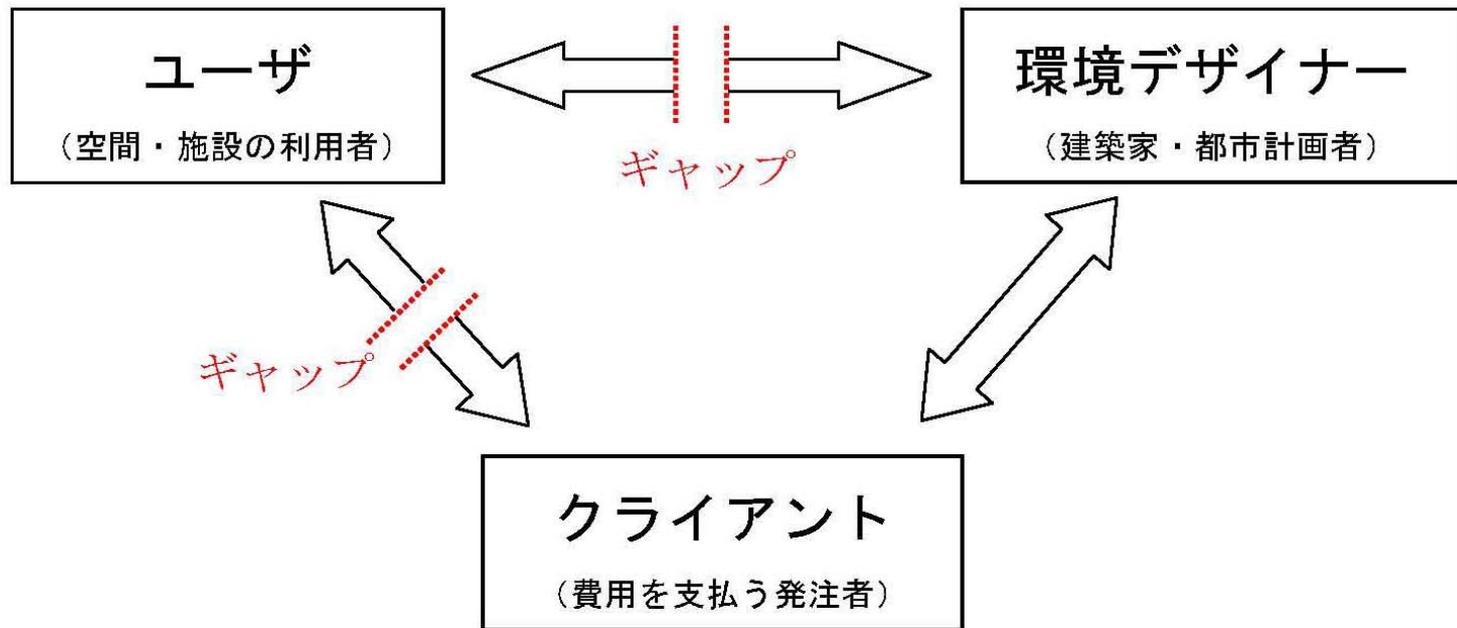


図1 ユーザと環境デザイナーのコミュニケーション・ギャップ

# ユーザーと環境設計者との橋渡し

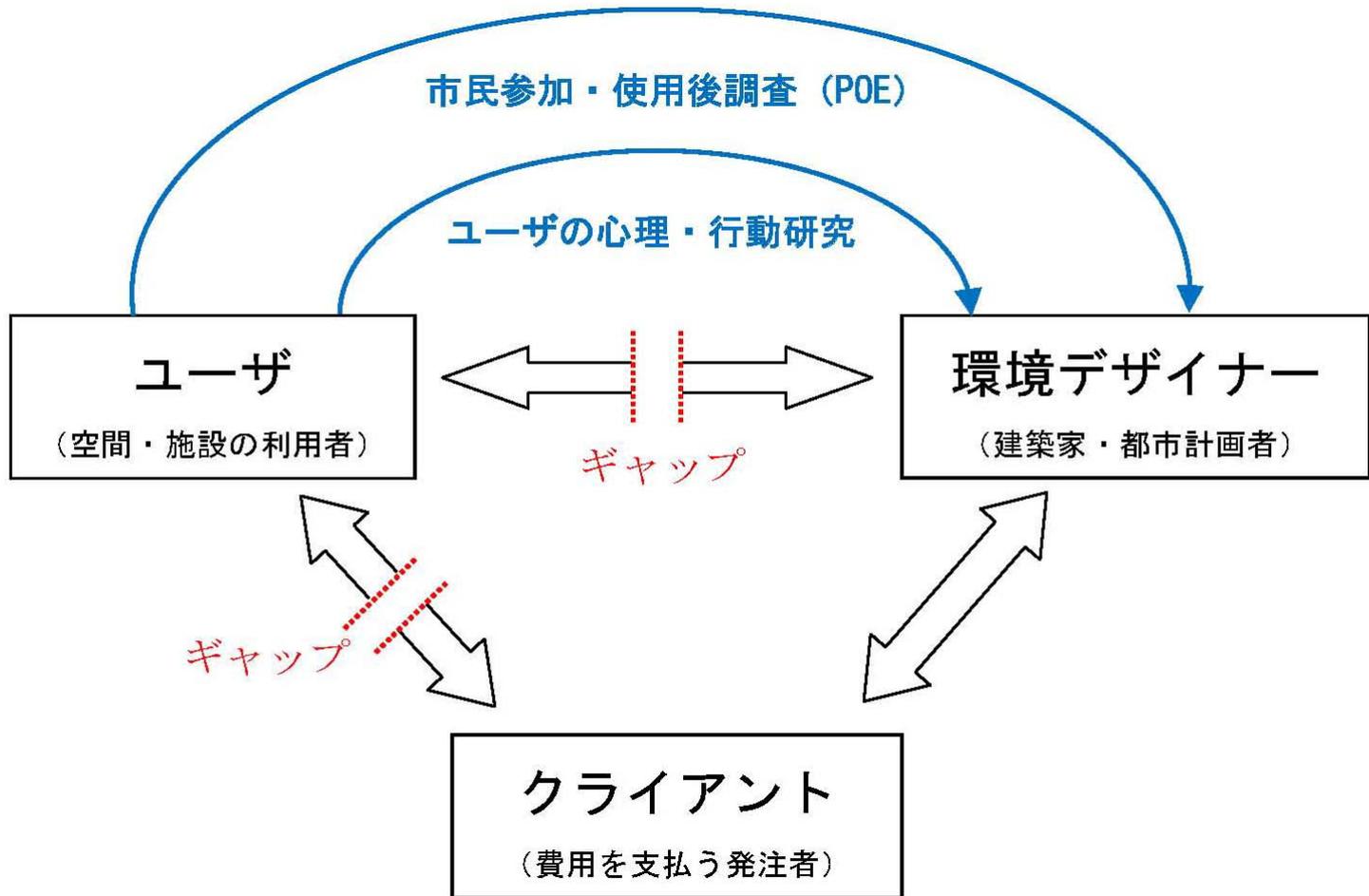
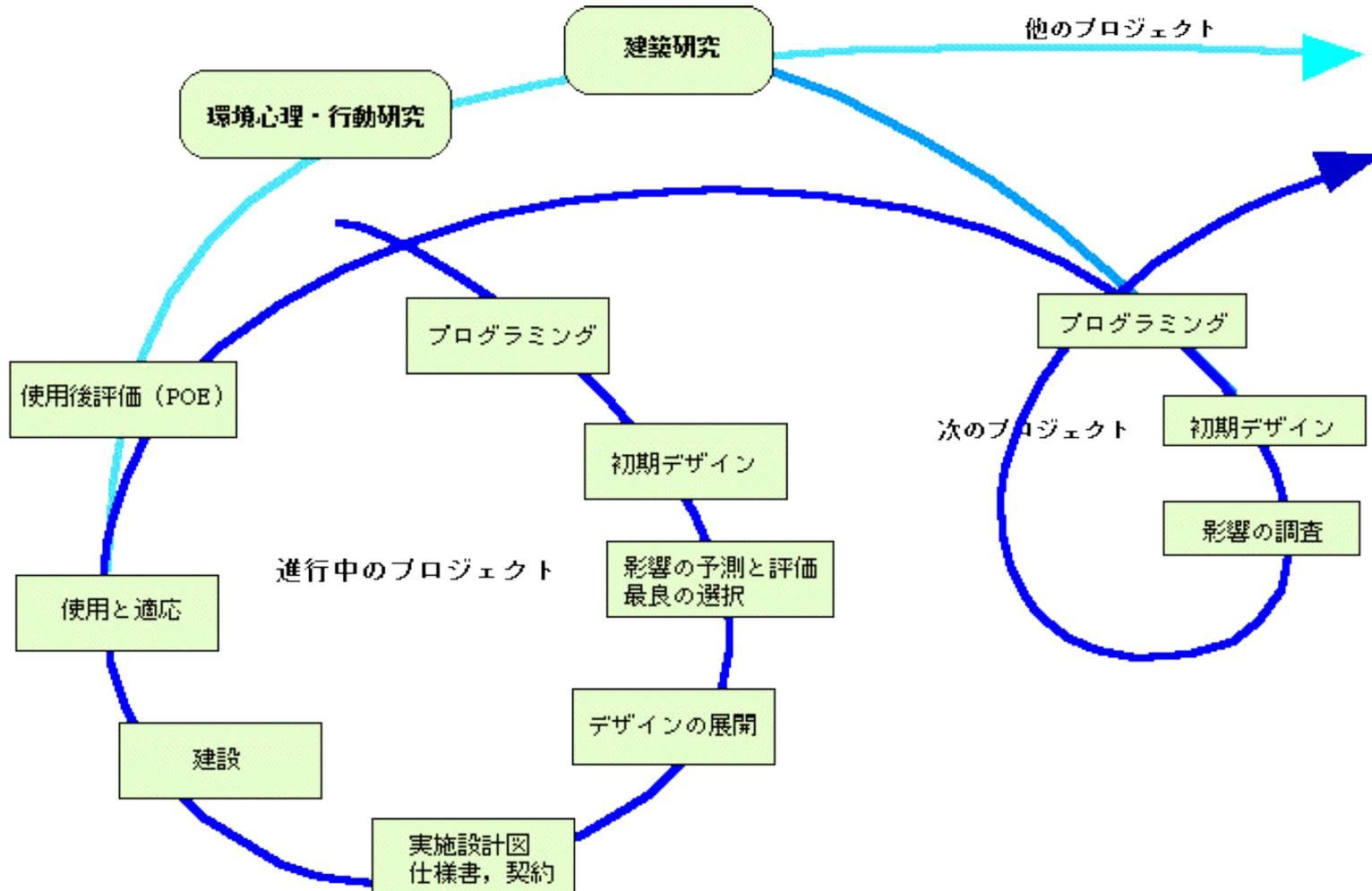


図2 ユーザーと環境デザイナーの橋渡し (bridging)

# 建物の使用後評価 (POE)



建設プロジェクトのサイクルにおける研究の関わり

(Zeisel, J. (1981) をもとに作成)

# 環境心理行動学(EBS) をなぜ学ぶのか

建築行為の失敗をなくすため:

- a. 使用者の行動に対する無知と仮説の誤りによる失敗

例 → アイゴー団地の失敗

環境設計者(建築家)と使用者との乖離

⇒ ユーザ研究の必要性

- b. 構築環境の複雑化, 巨大化による予測の誤りによる失敗

例 → 地下空間における迷い(大阪。梅田地下街)

⇒ 基本的な心理・行動研究の必要性

# 環境心理行動学(EBS) をなぜ学ぶのか

建築行為の失敗をなくすため:

- a. 使用者の行動に対する無知と仮説の誤りによる失敗

例 → アイゴー団地の失敗

環境設計者(建築家)と使用者との乖離

⇒ **ユーザ研究**の必要性

- b. 構築環境の複雑化, 巨大化による予測の誤りによる失敗

例 → 地下空間における迷い(大阪梅田地下街)

⇒ **基本的な心理・行動研究**の必要性